

特別展 広がる品川臨海部—新地開発から八潮地域の誕生まで

期間	令和2年10月4日(日)～12月6日(日) 55日間				
会場	第二展示室・ロビー・小講堂				
有料観覧者	一般 1,396	小中 72	一般団体 8	小中団体 0	有料計 1,476
無料観覧者	区関係 125	区内小中 973	招待 252	高齢者 613	無料計 1,963
					総計 3,439

【開催趣旨】

品川区の旧東海道から東側の地域は、多くが埋め立て地である。現在では、八潮地域などの住宅地域を含めた沿岸部の土地が、埋め立て地であることがわからないほど暮らして馴染んでいる。

品川区域における埋め立ては、江戸時代の南品川獺師町に始まった。寄洲約5,000坪が開墾され、天保5年(1834)の検地に際し「利田新地」と名付けられたことが知られる。その後も、幕末の台場築造、明治時代の鉄道敷設と築堤、昭和時代の東京港築港に伴う埠頭建設などが行われる。近世以降の品川では、土地を人為的に増やすことにより、時勢への対応や生活基盤の改善が図られてきた。

本展では、品川区域臨海部における土地の変遷に焦点を当てながら、八潮地域の成り立ちを紹介した。



【展示概要】

プロローグ 江戸時代品川沿岸の風景

第1章 品川における埋め立てのはじまり

第2章 東京港開港と品川

第3章 八潮地域の誕生

エピローグ 八潮の風景—八潮地域センターの記録写真を中心に

描かれ、書かれた品川沿岸の記憶

【記念イベント】

イベント名	日時	講師	会場	参加人数
学芸員による展示解説	①10月17日(土) ②11月17日(火) ③12月6日(日) 時間はいずれも 15:00～15:30	永山由里絵 (品川歴史館学芸員)	講堂	①18名 ②15名 ③23名 延べ56名